

「春眠暁を覚えず」、唐の詩人孟浩然の漢詩「春暁」の起句の書き下しです。この時期の遅刻の言い訳として耳にすることがあります。「春暁」の全文は、「春眠不覚暁 処処聞啼鳥 夜来風雨声 花落知多少」ですが、漢詩のままでもストーリーのおおよそが直感できることや起承転結の技法が理解しやすい規範的な五言絶句であることから、中学校教科書がこぞって採用しています。そのため、馴染み深いのではないのでしょうか。

さて、「春眠暁を覚えず」は、「春の眠りは心地よく、朝になったことにも気づかず寝過ぎてしまった」の詩意に訳されています。飽くことなく眠りを貪った中学生時代に学んだ方には大変共感を覚える漢詩ではなかったかと思います。

しかし、この五言は、官職に就けずにいる身には、朝寝しての遅刻を心配することもないという孟浩然の不遇が込められているといわれています。唐の時代、名だたる詩人のほとんどが官吏で、そのライフスタイルは夜明け前に出仕し、正午で政務を終えて退庁したようです。暁の語意も現在とは違って、夜半から夜明け前の時間帯を指していました。

唐の官吏もまた、寝過ごした際には、「春眠暁を覚えず」と春の心地よさのせいと弁解していたのかもしれませんが。秀逸な詩は、時処問わず人々に感銘を与えてくれます。

それでは、前号以降の発掘調査成果などを掲載します。

## 発掘調査だより

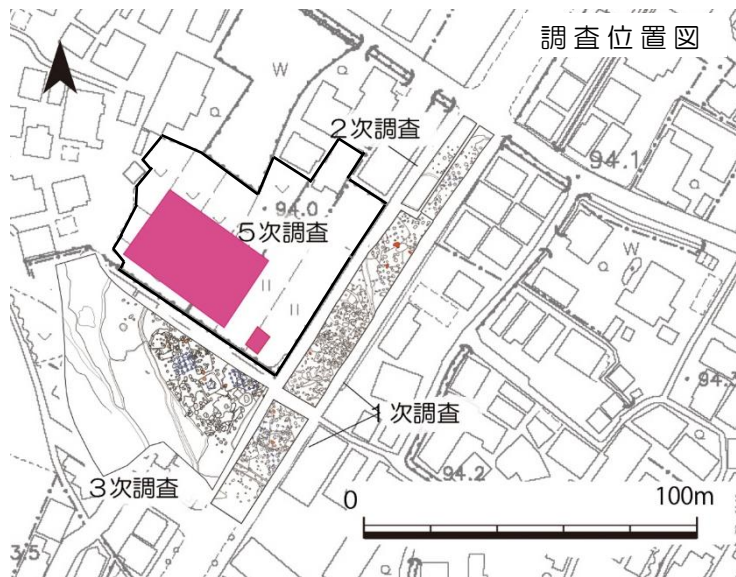
### 阿比留遺跡第5次調査

乙貞前号でも掲載しました阿比留遺跡第5次調査は、1月以降の天候不順が続くなかでの作業となりましたが、3月27日で終了しました。

ここで、今回の調査成果をまとめたいと思います。まず、調査は、市道播磨田-川田線（くすのき通り）の北西に隣接する約3,000㎡の畑地、水田地の店舗開発に先立ち、1月11日から実施していました。

調査箇所は、予め行った試掘調査で遺構が検出された店舗建築箇所の約3分の2（調査区1）と防火水槽設置箇所（調査区2）で、約890㎡の面積を測ります。

遺構は、そのほとんどを畑地が占める調査区1では、約1.7m下層の礫層を地山として検出しました。水田地に設けた調査区2では、耕作土層、包含層下約50cmの深さが遺構検出面となります。



さて、調査では、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、ピットを検出しました。遺構毎に概略を報告します。

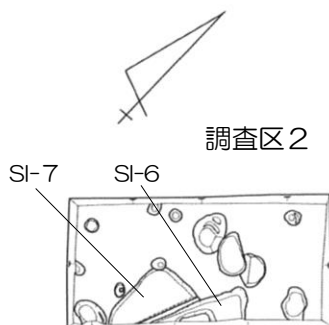
竪穴建物は、調査区1からは東隅に重複する状態で5棟（S1-1～5）と調査区2で2棟（S1-6、7）の7棟を検出しています。

S1-1は、その北半をS1-2の重複を受けています。覆土は茶褐色粘土で、約5cmで床面となります。地山が礫層であるため、西辺が不明瞭ですが、一辺約5.4mの方形プランの建物と想定できます。S1-2はS1-1、3を切り込んでいた、その重複関係から5棟の竪穴建物にあっては最も時代の下る建物です。建物北東辺が調査区外となりますが、一辺約4.4mの規模となる方形プランの建物になるようです。S1-3、4は建物北西隅を部分的に検出する建物で、切り合い関係からは、S1-2→3→4の順で時期が古くなることが想定できます。

調査区2で検出したS1-6、7もともに方形プランの竪穴建物で、北西隅を部分的に検出しました。



阿比留遺跡第5次調査 検出遺構図



今回検出した7棟ともに、建物床面で検出されるべき支柱穴、貯蔵穴は確認することはできませんでした。

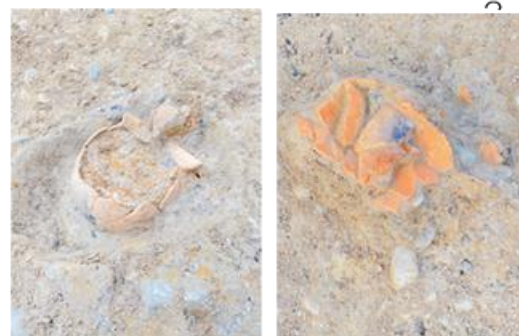
次に、掘立柱建物は調査区1で東西方向の柱列を検出していて、3棟(SB-1~3)が想定できます。SB-1は、3間×1間の規模を測り、建物軸は南北方向を5°東に偏っています。柱穴は径50cm~1.2m、深さ10~40cmを測ります。2間×1間となるSB-2も建物軸はSB-1と同方位を向きます。柱穴は径40cm~1.2m、深さ10~30cmを測ります。調査区の南端で検出したSB-3は東西方向に柱穴が並び、4間×1間以上で調査区外へ広がっていきます。

土坑は10基(SK-1~10)を検出しています。このうち、SK-1、2、4は浅く広がり、SK-3、5、6、9などとあわせて近接する1次調査でも見つかっていますが、どのような性格かは不明です。深さは20~30cmを測ります。また、SK-10は深さ約90cmを測ります。

溝は、調査区1でSD-1~4を検出しています。調査区南端で見つかったSD-1は東西方向に伸びる溝で、幅40~80cm、深さ約30cmを測ります。SD-2はSD-1の東側、調査区南隅で断片的に検出した溝です。SD-3は調査区西隅から東方にゆるく蛇行しながら伸びる溝



調査区1 SB-1,2 検出写真



調査区1 土器出土写真

調査区中央部でSD-4の重複を受けます。幅80cm~1.2m、深さは最深部で30cm足らずの規模となります。SD-4は、調査区中央を南東-北西に伸びる溝で、幅1.2~4.2m、深さは最深部で60cm近くを測ります。SD-4南端では、黒色土器椀や土師器の皿、陶磁器とともに木製の箸が出土しています。共伴土器から鎌倉時代の時期が考えられます。

今回の調査では、溝SD-4を除く大半の遺構は古墳時代後期の時期にあたります。市道播磨田-川田線建設の際に行った第1次調査では、韓式系土器や初期須恵器を伴った古墳時代中期と後期の集落が見つかっていますが、今回の調査では、先の1次調査で検出した後期の集落の広がりを検出したと考えられます。

レインボーロード以东の古墳時代の集落を概観すると、播磨田東遺跡で前、中期集落が営まれた後、阿比留遺跡に移行し、後期には、阿比留遺跡の他、四反田遺跡で集落が形成されたようです。(畑本)



調査区1 遺構検出全景写真



調査区1 SI-1~5 検出写真

## 令和5年度調査のまとめ

令和5年度は、下表のとおり12遺跡18地点で発掘調査を実施しました。調査の内訳は、個人住宅建築に先立つ調査が12件と全体の3分の2を占め、残り6件は店舗建築2件、道路建設と宅地造成、共同住宅建築、工場建設がそれぞれ1件となります。

調査場所は、次頁の位置図に図示していますとおり、各種開発が多いことと遺跡分布が濃密であることを背景に市域南半に偏っています。住宅建築を除く調査の成果については、本紙紙面でも報告しています。

### 令和5年度 実施発掘調査一覧表

(五十音順・遺跡毎、調査面積は概数・㎡)

番号	遺跡名(調査回数)	調査所在地	調査面積/ 開発面積(㎡)	調査期間	調査種別	調査原因	担当	乙貞掲載
1	阿比留遺跡(5)	小島町字三ノ坪	890/3,032	2023.1.15～3.27	受託事業	店舗建築	畑本	252号
2	伊勢遺跡(135)	伊勢町字樋ノ口、字大苗代	117/3,726	2023.4.3～5.18	受託事業	宅地造成	畑本	247号
3	焰魔堂遺跡(39)	焰魔堂町字角ヤ	32/166	2023.6.20	国庫補助	個人住宅	大東	
4	金森西遺跡(6)	金森町字仁願寺、字乾角	335/1,568	2023.10.2～12.5	受託事業	道路建設	沖田	250号
5	金森西遺跡(7)	金森町字仁願寺	300/2,049	2023.12.6～2024.1.10	受託事業	店舗建設	沖田	251号
6	金森東遺跡(65)	守山三丁目字七反ヶ町	34/198	2024.2.28	国庫補助	個人住宅	佐々木	
7	経田遺跡(18)	今宿四丁目字高田	49/181	2023.5.9	国庫補助	個人住宅	大東	
8	下之郷遺跡(133)	下之郷二丁目字白雨	65/174	2023.8.9～10	国庫補助	個人住宅	大東	
9	下之郷遺跡(134)	下之郷三丁目字皆廣	42/198	2023.8.23～8.24	確認調査	個人住宅	川畑	
10	下之郷遺跡(135)	下之郷二丁目字白雨	32/297	2024.3.14	国庫補助	個人住宅	佐々木	
11	高関遺跡(15)	伊勢町字辻、字鍵田	26/312	2023.9.15	国庫補助	個人住宅	佐々木	
12	高関遺跡(16)	伊勢町字鍵田	27/332	2023.9.15	国庫補助	個人住宅	佐々木	
13	二町鏡遺跡(24)	二町町字新屋敷	22/191	2023.8.31	国庫補助	個人住宅	佐々木	
14	古高遺跡(29)	今宿町字下五丁畷	30/195	2023.7.3	国庫補助	個人住宅	佐々木	
15	益須寺関連遺跡(40)	吉身六丁目字園田	112/610	2023.6.19～7.4	受託事業	共同住宅	沖田	248号
16	吉身西遺跡(134)	守山六丁目字下横枕	48/169	2023.4.20	国庫補助	個人住宅	大東	
17	吉身西遺跡(135)	守山五丁目字下岩賀	33/278	2023.11.8	国庫補助	個人住宅	佐々木	
18	吉身南遺跡(11)	浮気町字中ノ町	288/9,996	2023.7.10～8.3	受託事業	工場建設	畑本	

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Face Book からもご覧いただけます！



←歴史のまち守山はコチラから

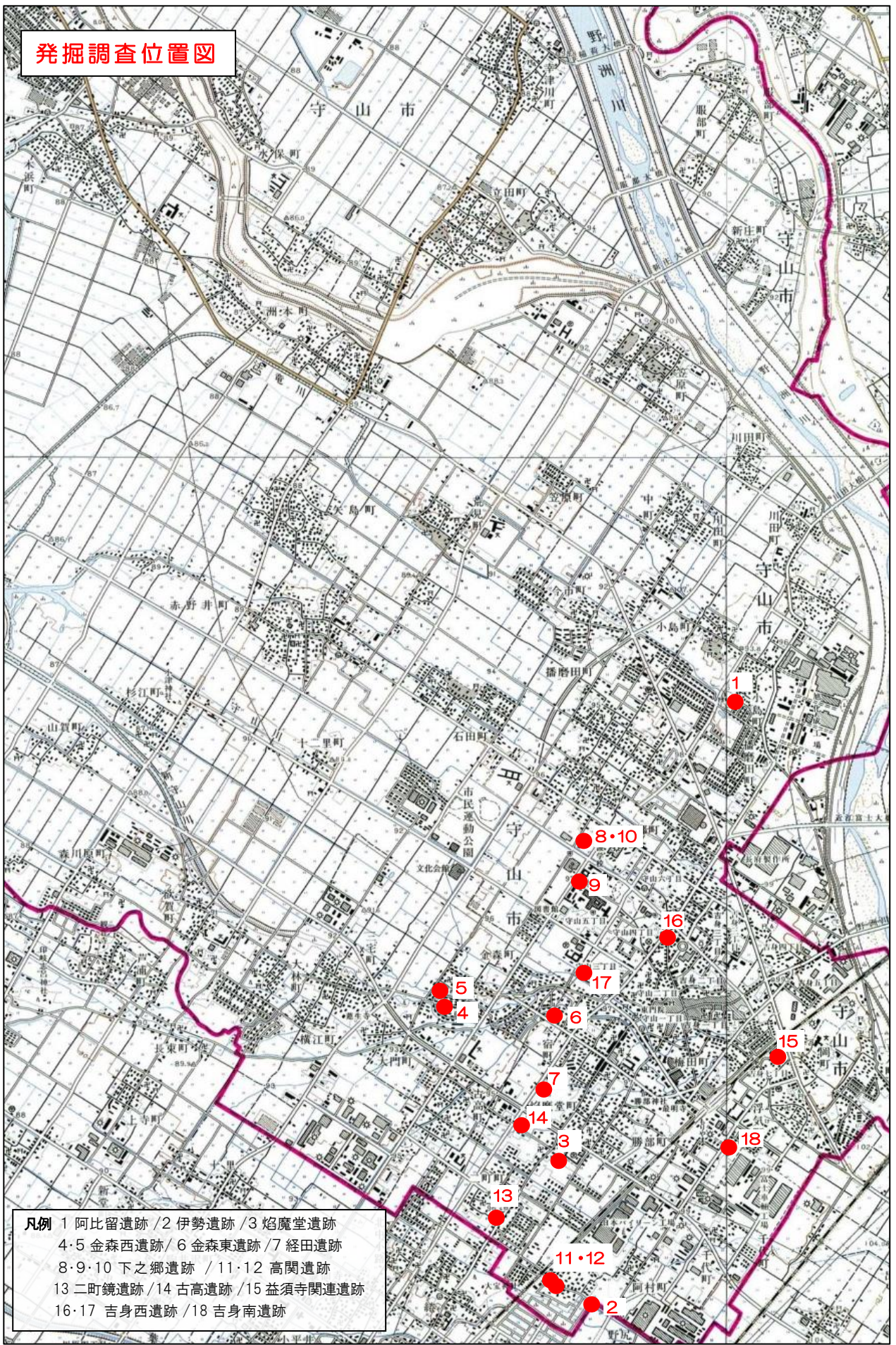
<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



発掘調査位置図



# 令和6年度 入門講座/春季・秋季講演会開催のご案内

## 春季講演会 受講受付中

5月18日(土) 14:00～

「米と人の関係史～弥生からつづく稲作文化を探る」

妹尾 裕介氏 (滋賀県立琵琶湖博物館)

## 5月15日より受付開始!

## 歴史入門講座「発掘調査からみた古墳時代の情景」

毎講第3土曜日午前10時開講

- ① 講 6月15日(土) 「古代王権は琵琶湖をどうみたか」  
細川 修平氏 (滋賀県文化財保護課)
- ② 講 7月20日(土) 「埴輪から見た近江の古墳」  
辻川 哲朗氏 ([公財]滋賀県文化財保護協会)
- ③ 講 8月17日(土) 「馬がひも解く古墳時代の近江」  
北原 治氏 (滋賀県文化財保護課)
- ④ 講 9月21日(土) 「継体大王と6世紀の近江」  
白井 忠雄氏 (高島市教育委員会)
- ⑤ 講 10月19日(土) 「すえものと言われた土器、須恵器」  
鈴木 茂氏 (野洲市教育委員会文化財保護課)
- ⑥ 講 12月21日(土) 「国宝・宝塚1号墳が語るヤマト王権」  
福田 哲也氏 (松阪市文化財センター所長)

## 秋季講演会 10月1日より受付開始

11月16日(土) 14:00～ 「古墳時代の製塩と消費、若狭と近江」

入江 文敏氏 (関西大学講師)

### info

開催場所: 守山市立埋蔵文化財センター2階会議室

受講定員: いずれも80名(事前申し込みが重要です。)

受講料等: 春季講演会、秋季講演会は受講無料、歴史入門講座は受講料200円/講

【後記】本紙の発刊前月、3月には、三重県松坂市宝塚1号墳の出土埴輪が国宝に指定されました。そして時を前後して、奈良市富雄丸山古墳出土品がテレビ、新聞紙上を賑わしていました。

1998～2003年に行われた宝塚1号墳の発掘調査で出土した船形埴輪をはじめとする埴輪群は、発見されるや国宝級と評価されました。そして、およそ四半世紀の間、古墳での執行儀礼、あるいはヤマト王権の東国支配など、微視、巨視相まった示唆を与え続け、今日の国宝指定という朗報が齎されました。

一方、昨年からはじめられた富雄丸山古墳の調査では、古代アジア最大や日本初と形容される蛇行剣、盾形銅鏡の発見が衆目を集めていて、こちらもまた、国宝級との絶賛を浴びています。

日本最大の円墳である富雄丸山古墳は4世紀後半の築造で、3世紀後半に誕生したヤマト王権が盤石な体制と化す過程でありながらも、あまり多くのことがわかっていないことから、空白の4世紀といわれている時期にあたります。5世紀初頭の宝塚1号墳は王権が日本全土に版図を広げ、古代国家誕生のストーリーを語ったように、富雄丸山古墳の出土品もまた、古代史の謎を解き明かすことができた暁に国宝という栄誉に浴するのではないのでしょうか。

(馬耳東風)